

淡路島のため池は、農業以外にも地域の生活文化に深く関係しています。このたび、ため池管理者の方々の協力を得て、これま

1 ため池の恵み

ため池の魚は、終戦後の食糧難の時代から貴重な食料とされてきました。多くはコイやフナを刺身やみそ汁、焼き魚とし、他には、ドボコやウナギ、ドジョウも焼き魚として食べられました。

また、その他の食べ方として、フナを竹刺しにして干物にしたり、滋養強壮のためコイの生き血を茶わん一杯飲むこともありました。ドボコやハゼボは佃煮にされることもあったようです。ドジョウは煮物にもされました。

ため池の泥抜きをした後に採れた魚の競りをすることもあったようです。また、魚を販売することもありました。

ウナギを採る際にはウナギカキという道具が用いられていました。また、夜に投げ網で採られることもあったようです。

ため池の貝なども食用とされました。タニシやシジミ、カラスガイを焼いたり、みそ汁の具として食べられました。また、タニシやカラスガイは煮物にもされました。エビは焼いて食べたり、海での釣りの餌にもされたようです。ケガニともよばれたモクズガニは、ゆでて食べられていました。

ウシガエルも食用にされ、脚のモモの部分が焼いて食べられました。

でのため池にまつわる生活文化について、聞き取り調査を行いました。



フナ料理



ウナギカキ

植物では主にヒシやハスを食用とし、実の部分を生食、塩茹でにしていました。また、レンコンがとられて、煮物や天ぷらなどにされていました。ため池に生えているヨシや雑草は家畜の餌として利用されていました。ガマの穂が町の花屋に販売されることもあったようです。



ヒシの群生



ヒシの実



タニシ料理



2 ため池の水の利用

生活用水として

上水道ができるまで、風呂や洗濯にため池の水が使われることがありました。各家にため池の水を引き込む堀があり、柄杓で風呂に水を入れることがその時の子供の役割だったようです。他にも、出湧と呼ばれる湧水とともに飲料水にも利用されていました。



ため池の水を引き込む堀
風呂の水や洗い水に利用されました。
※写真は跡地。

3 遊び場として

ため池はかつて子ども達の格好の遊び場でした。釣りや水泳を頻繁にしており、危険な場所と親に注意されながらも、隠れて遊んでいたよう

「池のこいとり」～昭和46年 浦小学校 小学5年生の作文集から～

「今日は、路谷池のこいとりやぜ」
「早よ、行こな」
ランドセルを置くや、路谷池に走っていく。
池は、水がたまっていたときよりも、
すごく深くて広いように見える。
池の底の方では大人達が、
大きなたまを持って
こいをすくっている。
子供らもあちこちで、
魚をつかむのに必死である。
底にたまったごみをかき集めている人もいる。

四年の健ちゃんは、
すねの上までどろの中に入りこみ、
あわてふためき、助けを呼んでいる。
男の子らは頭にどろをつけ、
それがかわいて
まっ白になっている。
どの子も頭から足までどろだらけ、
鼻のてっぺんにも、どろがのっている。
手に持ったバケツの中では、
今つかまえたばかりの
フナがピチピチはねている。



画(版画) 上田弘子

4 ため池と安全

ため池は、集落の中で防災上の重要な施設となっています。ため池が決壊すれば、集落に甚大な被害を及ぼすからです。

聞き取りでは、昭和初期にため池が台風により決壊し、死者が出たこともあったようです。「決壊すれば、ゴーという音で急に家に水が入り、瞬く間に水かさが上がっていく」と子どものころの

ことを鮮明に覚えていた方もいました。
その後、改修事業で洪水吐を大きくしたり、堤体を改修し、決壊することもなくなったようです。
また、現在も、未然に災害を防ぐため、ため池の管理者を集落から選出し、点検・見回りを行っているとのことでした。

トピックス

ため池にまつわる生活文化の聞き語り会を開催

この章を作成するために、ため池管理者の方々と神戸学院大学や兵庫県立大学の学生らが、ため池にまつわる生活文化の聞き語り会を開催しました。

ため池管理者として、地域の古老の方々も参加し、ため池の生活にまつわる話や歴史、思いなどを語って頂きました。

古老の話を何うに従い、かつてため池が地域の生活の中心的存在であったことが分かってきました。農業用水の利用以外にも、生息するコイやフナ、貝などが食料として利用されていたこと、水が生活用水としても利用されていたこと、

堤体に植生する雑草が牛など家畜の飼料になっていたこと、子ども達の遊び場になっていたことなどです。

一方で、ため池が災害の原因となることもありました。一度洪水で決壊すれば、下流集落に死者がでるほど被害が出ました。幼少時の記憶を鮮明に語った方もいました。お不動さんや水神さんへの信仰は、ため池決壊の怖さによるものでした。

そして、農業をとりまく状況が厳しくなるなか、ため池の管理が難しくなっているとの懸念が多く聞かれました。



南あわじ市での開催状況



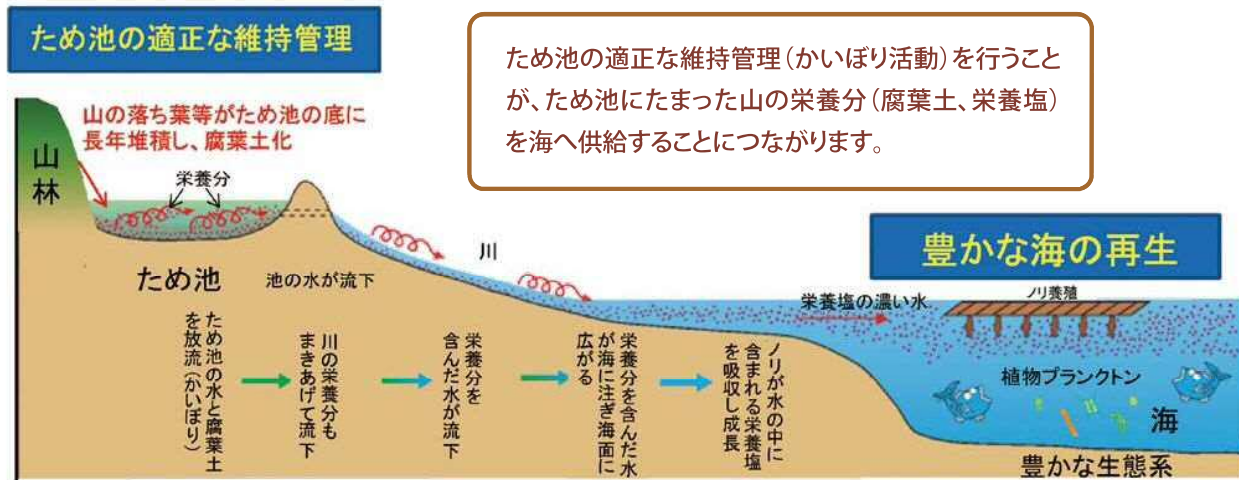
洲本市での開催状況

ため池を舞台とした活動

1 農業者と漁業者の連携による「淡路ため池・里海交流保全」の取組

淡路島では、農業者の高齢化等によるため池の管理不足や、瀬戸内海沿岸の栄養分低下によるノリの色落ちなどが問題となっています。

これらを改善するために、農業者と漁業者の連携による「かいぼり(池干し)作業」の取り組みの輪が淡路島内に広がっています。



ため池の適正な維持管理(かいぼり活動)を行うことが、ため池にたまった山の栄養分(腐葉土、栄養塩)を海へ供給することにつながります。



おおだいけ (淡路市釜口) での取組
森漁協・飯屋漁協が参加



くろだいけ (淡路市志筑) での取組
津名漁協が参加



くらたにいけ (淡路市多賀) での取組
一宮町漁協が参加



いでいけ (洲本市五色町鳥飼上) での取組
五色町漁協が参加

トピックス

[映画] 種まく旅人〜くにうみの郷〜

淡路島を舞台にノリとたまねぎ、かいぼりを主な題材として撮影された映画「種まく旅人〜くにうみの郷〜」が、平成26年に撮影され、27年初夏に全国で公開されます。



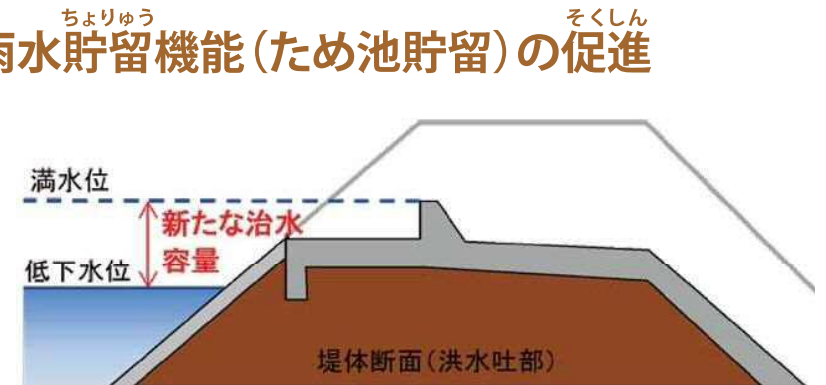
映画の舞台となった奈良町池(淡路市釜口)

2 ため池の有する雨水貯留機能(ため池貯留)の促進

淡路島には 約1万カ所のため池があり、「ため池貯留(ため池で大雨を一時的に貯留すること)」による洪水の減少が期待されています。

台風前などにため池の水を事前に落としておけば、その水量分が新たに治水容量(洪水の一時貯留量)として創出され、下流の洪水被害が軽減されます。仮に、一定規模(受益農地0.5ha)以上のため池約2千カ所すべての水位を事前に1m下げた場合、約2,000万 m^3 (淡路のダム13基相当分)の治水容量が創出されることになります。

県では今後、ため池貯留の効果検証を踏まえ、普及啓発や事前放流用の対策工事などの取組を促進していきます。



ため池を事前に落水していたときに創出される治水容量のイメージ図

トピックス

平成26年台風第19号 豪雨時のため池貯留効果

平成26年台風第19号(10/13~14)は、平成16年台風第23号を上回る時間93mm(10月の観測史上最大)の豪雨を淡路にもたらしましたが、ため池が雨水を貯留したため、洪水被害が軽減されました。(農業被害は平成16年台風23号被害の8分の1程度)



放流用の排水口「ため池栓」の設置

ため池の水量を常時一定水位まで下げおくように満水位下0.5～1.0mのところに「ため池栓φ100」（お風呂の栓のようなもの。）を設置。

つちとりいけ こしきちょうあいはら
写真：土取池（洲本市五色町鮎原）

満水位下0.5mの位置に設置しており、約7千㎡（25mプール14杯相当分）の貯留効果を創出。



「洪水吐の切り下げ」の施工

ため池の満水位を決める洪水吐を一部切り下げ、満水位を下げる事が可能なように施工。

こうさかいけ まつほ
写真：高坂池（南あわじ市松帆）

洪水吐堰高0.6mを切り下げており、約2千㎡（25mプール4杯相当分）の貯留効果を創出。

3 淡路ため池教室の開催

ふるさと淡路が誇るため池の持つ役割や機能などを学ぶ機会として、また、身近な地域文化への関心を高めるために、県では、島内の小学生を対象に出前講座を行っています。また、実際にため池に出かけ、ため池の施設（洪水吐、取水施設等）や生き物の見学も行っています。

平成24年からは、農業者と漁業者の連携によるかいぼり活動の見学も行っています。



【あしがき】

日本一、ため池が密集する淡路島。そうやって意識しながら近くの風景を見てみると、島内の至る所にため池が存在しています。いつ誰がどのようにして、これだけのため池を築造したのか。集められた数十冊に及ぶ文献には、これらのため池の築造にまつわる歴史と先人たちの大変な苦勞が記されていました。

そして、現在ため池を管理する方々からは、ため池が幼少時代から慣れ親しんだ場所であり、生活の中心であったと伺いました。今でもため池を大切に管理されている方が数多く居られました。

今回の編纂作業にあたり、淡路の農業発展を支えてきた、これらのため池に感謝する気持ちを持ち、次世代に伝えていく必要性を強く感じました。

最後に、この図書を発行するにあたり多大なるご協力とご指導を頂いた各分野の専門家の方々、ため池管理者の方々、関係機関の方々に心より厚くお礼申し上げます。


洲本土地改良事務所
淡路ため池ものがたり編纂PT一同

【引用・参考文献】


文献名	著者・発行者・編集者	発行年度
淡路史	著者：新見貫次 発行者：のじぎく文庫	昭和45年1月15日
淡路・いちのみやの伝説	著者：濱岡きみ子 発行：一宮町教育委員会	昭和58年1月1日
淡路祭事記365日	編者：神戸新聞淡路総局 発行：長谷正行	昭和58年9月11日
一宮町史	編集：一宮町史編集委員会 発行：一宮町	平成11年12月1日
稲作のまつりと折り・淡路島の年中行事	著者：永田誠吾 発行：(株)教育出版センター	平成19年11月11日
合併20周年記念誌「緑町風土記」	編集：緑町合併20周年記念誌編纂委員会 発行：緑町教育委員会	昭和52年4月1日
郷土の民話淡路編	編集：郷土の民話淡路地区編集委員会 発行：一般財団法人兵庫県学校厚生会	昭和48年5月 第4刷発行
澤無窮—ため池築造三百周年記念—	著者：濱岡きみ子 発行：一宮町教育委員会	平成3年5月8日
東浦町史	編集：東浦町史編集委員会 発行：東浦町	平成12年3月31日
兵庫県文化財調査報告書第40冊 淡路・志知川沖田南遺跡	編集：兵庫県教育委員会社会教育・文化財課 発行：財団法人兵庫県文化協会	昭和62年4月1日
兵庫県埋蔵文化財情報3号「ひょうごの遺跡」	兵庫県教育委員会 社会教育・文化財課	昭和59年10月15日
兵庫のため池誌	編集：兵庫県農林水産部農地整備課 発行：兵庫県	昭和59年3月31日
美女池	南淡町教育委員会	平成9年10月
ふるさと八木	八木史談会会員	平成11年8月5日
南淡路の民俗	著者：武田信一 発行：神戸新聞総合出版センター	平成19年7月20日
柳沢の民俗	編者：濱岡きみ子 発行：一宮町教育委員会	昭和59年10月14日
路谷池物語	高田成樹	—
わたしたちのまち洲本	編集：洲本市小学校社会科副読本編纂委員会 発行：洲本市教育委員会	平成10年4月1日改訂

【共同執筆者一覧】

第4章（自然の話）：兵庫県立大学 緑環境景観マネジメント研究科 准教授 澤田佳宏 第7章（生活文化の話）：神戸学院大学 人文学部人文学科 准教授 矢嶋 巖



淡路ため池ものがたり



編集：兵庫県淡路県民局洲本土地改良事務所
〒656-0021 洲本市塩屋2-4-5 兵庫県洲本総合庁舎
TEL:0799-26-2118 FAX:0799-22-2510

平成27年3月 発行：兵庫県

26淡路©1-002A4